

新興感染症感染拡大防止に向けた地域プラットフォーム形成シンポジウム

第14回ワークショップ事後アンケート 集計結果

2025年3月

公益財団法人 全日本科学技術協会

このたびは、「新興感染症感染拡大防止に向けた地域プラットフォーム形成シンポジウム」第14回ワークショップにご参加くださりありがとうございました。

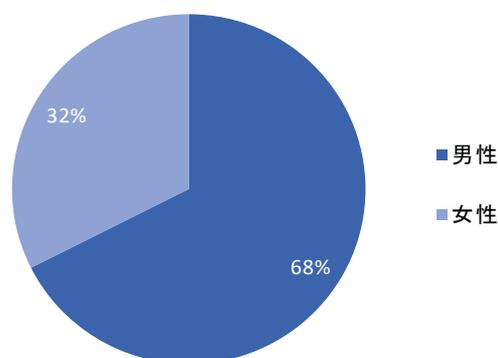
JARECは、これからも必要な感染対策など「PREPAREDNESS」について考え、広域・産学官連携してのネットワーク構築の「場」として、ワークショップを開催して参ります。

つきましては、本アンケートへのご協力をお願い致します。

事後アンケート（回答総数 37名）

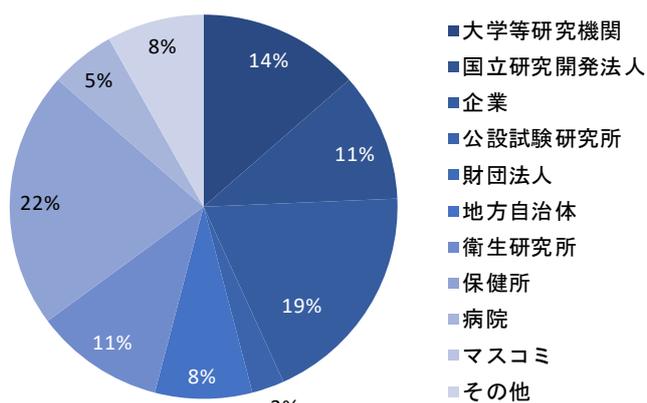
\* 性別

	回答数	構成比
男性	25	68%
女性	12	32%
計	37	



\* 所属区分

	回答数	構成比
大学等研究機関	5	14%
国立研究開発法人	4	11%
企業	7	19%
公設試験研究所	1	3%
財団法人	0	0%
地方自治体	3	8%
衛生研究所	4	11%
保健所	8	22%
病院	2	5%
マスコミ	0	0%
その他	3	8%
計	37	



1. 当日の参加についてご回答ください。

参加 32名

欠席 5名

合計 37名

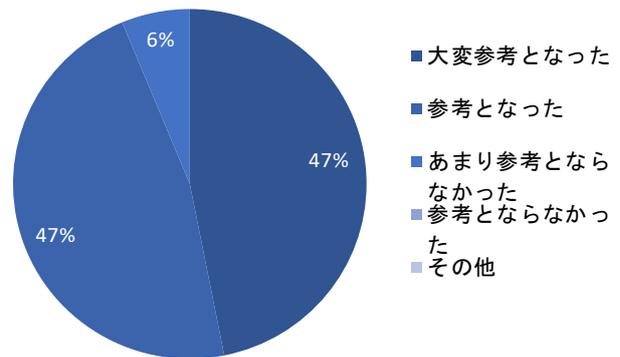
2. 基調講演についてお伺いいたします。

### 「下水疫学調査による感染リスクの予測と経済評価」

兪 炳匡 (Yoo Byung Kwang) 氏

2-1 神奈川県保健福祉大学の Yoo 先生には、COVID-19・インフルエンザを含む新興感染症対策の国際比較と下水疫学から得られるデータを活用した感染症対策の経済学的評価について講演頂きました。講演内容は、現在および今後のご活動において参考となりましたか。

	回答数	構成比
大変参考となった	15	47%
参考となった	15	47%
あまり参考とならなかった	2	6%
参考とならなかった	0	0%
その他	0	0%
無回答	0	—
計	32	



注) 欠席 5 名除く

<その他の意見>

- ・ 活用できるデータとは何か、オープンな力を各国と比較して頂いたおかげでよく認識できました。先進国は多様性の連携がとれている一方で、日本は多様性といっても似た方向性で小さい組織が独自性と閉鎖性を発揮しており、効率が悪いと感じております。日本の報道の偏りも日々感じるところであります。このような中、先生や横浜の取り組みを知ることができたのはよい刺激ともなりました。
- ・ 別件で聴講できず資料のみ拝見しました。他国との比較の中で日本のコロナ流行時のサーベイランスの問題などが解説され、下水サーベイランスの有用性を示され、技術だけでなく経済学的な視点も入っており、非常に参考になりました。
- ・ 出席できなかったのが恐縮ですが、下水サーベイランスによる予測がいかに精度が高いかを中心に講義をいただくと自治体の理解が良くなると思います。
- ・ 例えば 1 週間までの動向から算出した当該週の予測値と、当該週の実際の値、当該週の定点あたり報告数を比べるなどでしょうか。
- ・ 医療機関としては、今がピークなのか、まだ増えるのか、ピークはいつ頃になりそうかが予測できると、大まかな予定入院の調節や救命病棟からの転床の判断材料になると思います。
- ・ 感染症の流行予測について国内技術の乏しさを知ったが、正確に推測するには時間や費用がかなりかかると知り途方に暮れた。しかし、下水サーベイランスが流行予測に利用できそうなので、今後検討したいと思ったが、なぜ下水サーベイランスの方が先に流行の波があるのか不思議だった。
- ・ 米国との違いは予算だけなのか、政策決定のプロセスにおいて何が違うのか掘り下げが聞きたいと思った。
- ・ 大変興味深い内容であったため
- ・ 私は下水疫学の国際標準作り (ISO) に取り組んでいます。
- ・ 日本ではコロナに感染しても病院に行かず、カウント漏れがあることがわかりました

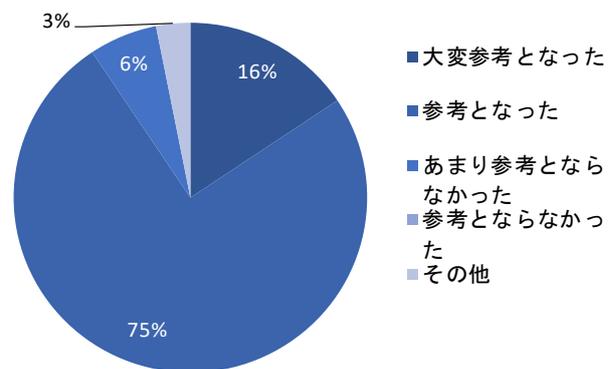
- ・ 日本が感染モニタリングに課題を持っていたか、また下水サーベイランスが有効であったか、それを認めない政府、自治体の浅はかさが良く伝わった
- ・ 下水によるサーベイランスに将来性があることがよく分かった。
- ・ 疫学調査手段としての選択肢が増えた
- ・ パンデミックの経緯や対応状況・課題などが理解できた
- ・ 日本政府の対応を見直す機会になった。
- ・ 国の感染リスク予測の充実が急務であること
- ・ 下水サーベイランスの有用性について。

## 「高感度イムノクロマトキット開発に関する取組」

幡野 健 氏

2-2 埼玉大学の幡野先生には、微粒子に抗体を結合させ抗原などの標的物質の有無を判断するための標識化物質として利用したイムノクロマトキットの開発、およびキットを活用した感染症の診断評価結果について講演頂きました。講演内容は、現在および今後のご活動において参考となりましたか。

	回答数	構成比
大変参考となった	5	16%
参考となった	24	75%
あまり参考とならなかった	2	6%
参考とならなかった	0	0%
その他	1	3%
無回答	0	—
計	32	



注) 欠席 5 名除く

<その他の意見>

- ・ 最後に報告された蛍光イムノクロマト法によるアミロイドβの検出開発に期待する。リアルタイムPCRは、日常診療では時間が掛かってしまい使えない。検査キットの精度が上がることは、よいことだと思う。
- ・ JST 事業で研究が進捗したことはありがたいこと。「何でもできる」のは、出口が明確にならず「何もできない」ことにつながりかねないので、まずは実用化を進めてほしいと思った。
- ・ 超高感度なイムノクロマト法はとてもいい開発だと思ったが、蛍光ラインが少し目視では見づらい気がした。またイムノクロマト法の利点は家庭でもどこでもできる手軽さなので、UVを照射するなどの手間が省けるとより活用しやすいと思った。
- ・ イムノクロマトによる迅速簡易検査法は非常に重要な方法である一方、検出感度に課題があるが、本技術はそれを解決する新たな手法として関心がある。
- ・ 抗体を原料とするのは割高と感じておりましたが認識が変わりました。新興国展開の経済性の話や米国キット普及の阻害要素も伺ってみたいと感じました。
- ・ 一般行政においても手軽に試料としてできるようになるといいのですが

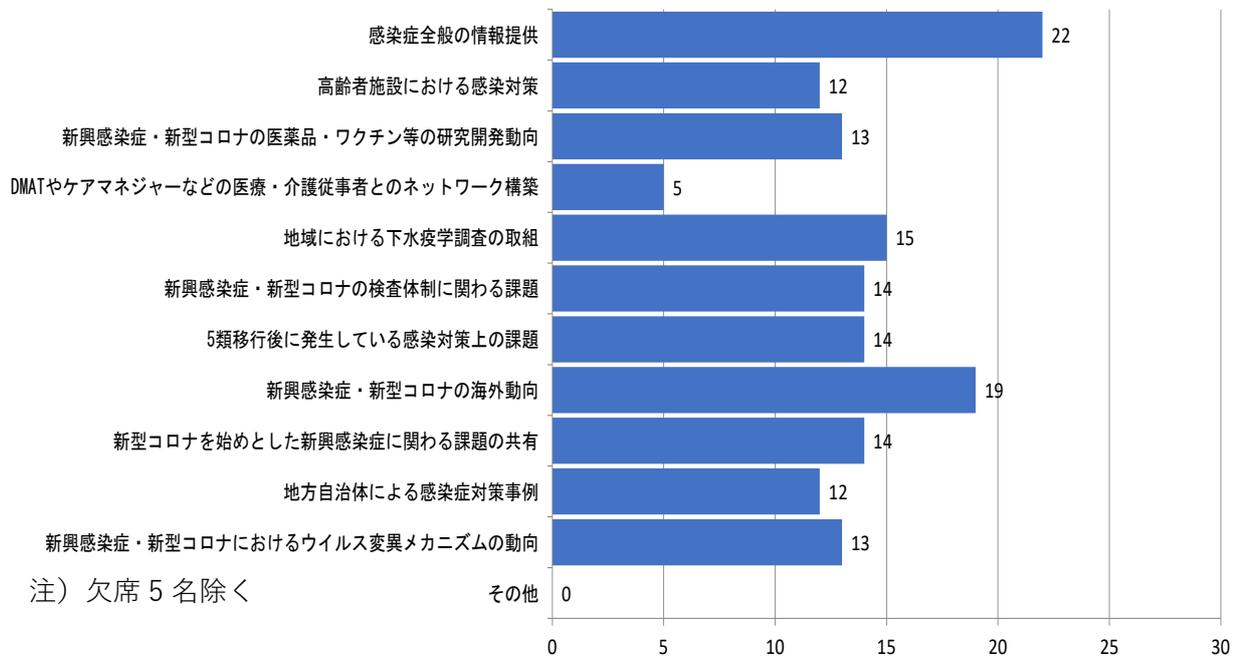
- ・ 非常に感度が高いことは分かったが、擬陽性は本当に少ないのか気になった。
- ・ 途中までしか聞けなかったが、高感度化に工夫されたかが伝わっていた
- ・ Alzheimer への取り組みが興味深かったです。
- ・ 技術の内容がよく理解できた。

2-3 その他、講演に対するご意見・ご質問・ご感想がありましたらお聞かせください。

(自由記述)

- ・ 毎回、とても興味深いテーマを提供していただいて、楽しく視聴させていただいております。
- ・ このような貴重な研修会の企画を今後ともよろしくお願ひ申し上げます
- ・ どちらの講演もたいへん興味深く、また参考になりました。
- ・ 今後も定期的に開催下さい。

3. 今後のシンポジウムで講演を希望するテーマについて、当てはまるものにすべてチェックして下さい (複数回答可)。



4. JAREC は、今後もシンポジウムの開催を予定しております。今後の開催に際して、希望する講演や事例紹介などのご要望等がございましたら、ご意見をお寄せ下さい。

(自由記述・全角 200 文字以内)

- ・ 高病原性鳥インフルエンザの人間への感染情報と対策
- ・ 引き続き各分野の専門家の方々の知見を共有して頂きたいと思ひます。USAID の停止や国際機関の活動縮小などが学術活動や国際公衆衛生に与える影響なども心配です。
- ・ 今後もこのような勉強になる会がありましたら御教示ください
- ・ 量子科学の進展状況

以上